

さあ！ 「陽気ぐらし講座」が 始まりました……！

去る二月二十日に開催された「陽気ぐらし講座推進研修会」を受け、部内教会の数ヶ所において、「陽気ぐらし講座」が開催されました。『かさおか』では、今後、実施状況と開催予定を掲載するとともに、幾つかの会場での実施にいたった経緯・開催しての所感などを掲載していく予定です。

今回は、その第一回として、研修会の翌朝、万難を排して早速弾み車を回してくださった福昭分教会よりの開催報告を掲載いたします。

なお、「福昭分教会」を掲載することは三月二十一日の『かさおか』編集会議で決定しておりますが、編集部の手違いで四月十二日午前中になつて原稿を依頼したところ、平盛氏におかれては、「快諾のうえ、その午後には原稿を上げてくださいました。これから掲載する開催報告からも読み取れますが、「何でも素直に受けさせてもらおう」という氏の心組みが偲ばれて、難題をお受けくださったことにこの場をお借りしてお礼申し上げますとともに、同志の皆様ますますの発奮を期するものです。

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311

笠岡大教会 創立110周年

三年千日スローガン
論達を實踐し、をやの理を戴こう
本年の實踐項目
つとめに専心
百万軒にをいがけ
全教会で陽気ぐらし講座開催

陽気ぐらし講座を開催して

福昭分教会長 平盛秀年

去年十二月の福山分教会の月末会議の場で、会長さんより「来年は大教会百三十七ヶ所全教会で陽気ぐらし講座の開催をさせて頂くという思いから、来年二月二十日に大教会で『陽気ぐらし講座推進研修会』を開催するが、折角、講師京塚貞先生・芸能天中軒鵬さんに来て頂くのに、大教会で一回だけというのももったいないので、福山で三会場ぐらいを開催したい。」と発表されました。「二十一日は大教会の月次祭でもあり、他の教会で開催するのもむずかしいので、福山で受ける事にした。」と云われました。

その場で、会長さんより「福昭で二十一日の午前中開催してはどうか」と声を掛けて頂き、何も思わず「ハイ」と答え、受けさせて頂きました。

しかし家に帰ってカレンダーを見ると、二十一日は月曜日であり、初めての陽気ぐらし講座開催という事もあり、困ったなと一瞬思い、家内にも「今日、福山の会議で開催を受けた」と云いましたところ、丁度家内の会社

11月21日 目指して、百万軒 達成しよう!!

創立百十周年記念祭まで、あと592日



が月曜日が休日なので、未信者対象五名以上は何とかなるでしょうと云ってくれました。

そして一月中頃より、信者さんにも頼んで、口頭で一軒ずつまわって参加を呼びかけました。しかしなかなか反応がなく、選挙と一緒にふたを開けてみなければわからない状態で当日を迎え、近所のお好み屋さん、駐車場を頼んで、終ったらお好みを食べますのでお願いし、午前九時三十分より京塚先生の講演が始まり、午前十一時三十分天中軒鵬さんの歌謡浪曲が終了しました。

そして、人員「未信者さん二十五名」の御守護を頂き、総数三十八名となり、京塚先生・天中軒鵬さんと未信者十六名と共に昼食をお好み屋で一緒に話を交えながらとらせてもらいました。

京塚先生より「陽気ぐらし講座開催後のこのようなふれあいは何より大事な。大変よかったです。」との言葉を頂き、今後この人達の丹精をさせて頂くとの決心をさしてもらいました。

今思うに、福山分教会の会長さんの声を素直に受けさせてもらって本当によかったと思います。

心を通ひ路

『ひのきしん』を考える

米美分教会長 三代 信行

再来年のひのきしんデー七十周年に向け、ひのきしんの実践をもつて社会に向けてののをいげに繋げていこうと、今年からその取組がなされております。

私は、十六才から始めた献血ひのきしんの延長のつもりで骨髄バンクに登録していましたが、三年程前に登録者の七十分の一という確率を通り、適合する患者が見つかり骨髄提供をしました。

相手の患者さんは何処の誰かは分かりませんが、三才と一才の二児のお母さんだそうです。私も四児の親として、発病から移植に至るまでの苦しみがよく分かりますし、移植によって助かったとしたら、家族の喜びも如何程のものであろうかと想像します。

その骨髄提供が縁で、現在「鳥取県骨髄バンクを支援する会」の運営委員として普及広報などのボランティア活動をしております。この会の活動を通して、様々な人達と出会いました。元患者であった人、白血病で息子さんや娘さんを亡くされた人、仕事場の同僚を助けようと立ち上がった人

達、既に登録していてもまだ提供の要請はないけど、何か自分に出来ることはないかと地区普及広報員として仕事の合間にボランティアの世話をしている人。更に、出身地因島の見ず知らずの自分の後輩に当たる高校生が白血病で、骨髄移植でしか助からないことを知り、それ以後骨髄バンクの講演に全国各地をノーギャラで飛び回っている女優の東ちづるさん など。

そういう人達と共に活動をしていると、その人達がすごく純粋な気持ちでボランティアをしていることに気づき、逆に私は（それがなければひのきしんではなくなるのでしようが）、常に根底ににいがけということを意識していることに気がきました。

今、私達お道の中では、ひのきしんの方がボランティアより上、という意識を持つてはいないでしょうか？ ある面ではボランティアに携わっている世間の人達の方が、純粋に人の為、世の中の為に自分の出来ることを模索しているのではないかとも思います。

五月は、全教一斉ひのきしんデーがあります。この日は、よふぼくが集い、広く世界にお道のひのきしんのすばらしさを伝えていくと同時に、自らの信仰生活の在り方を見つめ直す日であるとかせて頂きます。これを機に、自らも喜び、人様にも喜んでもらえ、親神様にもお勇み頂けるひのきしんの実践について考えてみてはいかがでしょうか。

地球残留孤児

福満分教会長 福島 大介

少し前だがある新聞に、『昨秋の中国残留孤児の訪日調査に参加し、血液鑑定を行っていた王翠蘭さん(58)(黒竜江省牡丹江市在住)が、青森市在住の中山秀子さん(64)の妹みつゑさんであることが確認された。』とあった。現代では、多くの人が「中国残留孤児」という言葉や存在を知っている。先の調査で30回目だというのだから、私達がこういふ報道を目にし、耳にする機会が多いはずだ。



ところで、私は「中国残留孤児」のニュースを見る度に思うことがある。『この人達は今の境遇に関係なく、そして、どんなに年をとつても肉親に会いたいのだ。自分を産んでくれた親が誰なのか知りたいのだ。しかも、ほんの一握りの手掛りを頼りにして…』だ。

過日、私は広島県東部地区の里親登録書を提出した。昨年の暮れから新年にかけての10日間、頼まれて乳児院から幼児を預つたのだが、私が預つた子供は、2歳になったばかりだったが、発育が普通の子供より約1年も遅れていた。歯はあるが食べ物を嘔むことができないため、吸うか丸飲みするのである。喋れないし、目も少し不自由だ。

一番親を必要とする乳幼児期に、親からの愛情を受けずに捨てられたこの子が、今後どんな人生を歩むのか、心配にならずにはいられない。もし縁があれば我が子と同じように育ててやりたいと思ひ、里親登録をしたのだ。それでも、いつしかこの子も成人して、自分の産みの親を捜し歩くかも知れない。

先にのべた中国残留孤児や、某TV局の人気番組に肉親を捜してくれと依頼する人があつたをたないことから考えても、これらの人々は、どんなことをしても、自分の親が誰なのか知りたいのだ。それは何故か？ それは「知らない」からである。このお道の人は、世界中の人間は皆親神様の子供であると教えられ、そう信じている。しかし、世界にはまだまだ、この真実が伝わっていない。だからこそ『にをいがけ』なのである。にをいがけとは、つまり人間の親が一体誰なのか未だ知らない人々に伝える行為である、と言つても過言ではなからう。ならば私達は、人間を創造された主が、親神天理王命であると言ふことを知らない人々に知らせるべきである。DNAや、血液鑑定といった面倒なことはいらないのだから、いつまでも、『地球残留孤児』のままでないで済むように、身元確認を急いであげよう。

ようぼく躍進地方講習会の受講者は
家族ぐるみで参加しよう!

5月14日(日)は
全教一斉ひのきしんデーです

三月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に 会長 上原理 慎んで申し上げます

親神様には「月日にはたなく、どんな事でもなたすけるもよふせくはかりやで」と一列子供陽気ぐらしが見たい一筋の親心から 十全の御守護でもって働き下さっておられるのに関わらず その理がわからず 一列助け合う事を忘れ 我が身勝手に心を遣い 身に行うて 自ら陰気暮らし(人類破滅)への道を歩む姿をご覧になり あわれと思召され 少しでも陽気ぐらしへの道へ立て替えようとて 身上事情にしるしを見せてお導き下さいます事は 誠に有難く勿体ない極みでございます この道にお引き寄せ頂いたお互いは 思召を感謝し 自らの心得違いを反省し 身の行いを正すべく 未だ思召を知らない人々に教えを伝えようとにをいがけ おたすけに務め励まして頂いております

その中にも今日の吉日は 三月の月次祭を執り行う目出度い日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕者一同 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達と心を一つに睦び合わせて 明るく陽気に勇んで 座りづとめてをどりを勤めさせて頂きます 皆の勇み心をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて 真柱様より 本年は論達実動の年と位置づけて頂き それに込めるべく「つとめに専心」「百万軒にをいがけ」「陽気ぐらし講座開催」を三本柱として 実動に掛らせて頂いてすでに三ヶ月 歩み出しは多少もたつきもありましたが 以降順調に実動に務めさせて頂いておりますが 親神様の思召を伝えるという点で まだこれからの感がありますので より気持を引き締め 取り組ませて頂く所存でございます そして その真剣な思いを 教会長講習会 教祖御誕生祭団参や鼓舞講習会 学生春のおぢば帰り 婦人会創立九十周年記念総会として 婦人会笠岡支部御臨席総会にも向け それらを通して親神様の御教えが延び広がるよう精一杯務めさせて頂く覚悟でございます

何卒 親神様には 思召に添いきり 成人を目指す皆の真心をお受け取り下さいまして たすけ一条の上に 親神様 教祖のたすけの理をお現わし下さり 人々の心が一列兄弟の理に目覚めて 互い立て合い助け合う 陽気ぐらしの世の状に 一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

II 辞令 II

立教163年4月16日付

◎登用

| | |
|-----|---------|
| 承事 | 田林 志計 實 |
| 準承事 | 三島 克巳 |
| 青年 | 門脇 元教 |
| | 内海 史郎 |

◎世話人

| | |
|----|--------|
| 神邊 | 岡本 久善 |
| 陽備 | 佐藤 道孝 |
| 陶山 | 大教会前奥様 |
| 芳井 | 門脇 誠教 |
| 皆部 | 吉岡 壽 |
| 服部 | 吉岡 壽 |

◎立教163年直轄教会定期巡教

| | |
|-----|---------|
| 福山 | 大教会 奥様 |
| 高山 | 大教会 前奥様 |
| 神邊 | 田中 一之 |
| 島根 | 武内 清 |
| 久松 | 武内 清 |
| 鶴山 | 大教会 長様 |
| 弥高山 | 岡本 久善 |
| 陽備 | 大教会 奥様 |
| 金浦 | 大教会 長様 |

| | |
|------|---------|
| 興明 | 大教会 長様 |
| ひろさと | 大教会 奥様 |
| 陶山 | 大教会 前奥様 |
| 芳井 | 大教会 長様 |
| 吳照 | 岡本 久善 |
| 海松ヶ岡 | 大教会 前奥様 |
| 東悠 | 佐藤 道孝 |
| 吸江 | 岡崎 輝夫 |
| 照陽 | 田中 一之 |
| 輝美濃 | 佐藤 道孝 |
| 新山邑 | 上原 繁道 |
| 皆部 | 大教会 長様 |
| 明石市 | 岡本 久善 |
| 上下 | 岡本 久善 |
| 府中市 | 上原 繁道 |
| 東城 | 田中 一之 |
| 服部 | 大教会 前奥様 |
| 島中 | 大教会 奥様 |
| 驛家 | 上原 繁道 |
| 油木 | 武内 清 |
| 葦陽 | 武内 清 |
| 湯田原 | 武内 清 |
| 備中 | 上原 繁道 |
| 神昭 | 大教会 奥様 |
| 美之郷 | 大教会 長様 |
| 錦備 | 大教会 奥様 |

◎教会長資格検定講習会修了者
前期 立教163年4月14日終講
吳 福 三宅 利二

春季靈祭祭文

此の笠岡大教会の祖靈殿にお鎮まり下さいませ 本席様の御靈 初代真柱様並びに奥様の御靈 二代真柱様の御靈 中山家御先祖の御靈 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の御靈 初代会長上原さと刀自の御靈 二代会長上原伊助大人光刀自の御靈 三代会長上原繁雄大人くに多刀自の御靈 四代会長上原郁雄大人の御靈 大教会草創の頃より多年に亘り共に御苦労下さいました役員 部内教会長 教人 よふぼく 信者の御靈 諸々の御靈の前に 会長 上原理 一 慎んで申し上げます

御靈様方には 親神様 教祖のお見定めとお引き寄せを頂かれ 無い命助けて頂いた御礼と生かされている喜びを胸に 一 恩報じを念じて どんな難儀不自由の中も心倒すことなく むしろ教祖ひながたの万分の一でも通れると 勇んで生きの限りたすけ一条の上に務め切られました 親神様の御守護お導きを戴いて 今日笠岡の道の結構な姿をお見せ頂いているのも 御靈様方の真実の伏せ込みの賜と 毎日朝夕に御礼を申し上げておりますが その中にも今日の日 は 春の御靈祭を執り行う定めの日柄でございますので 只今はおつとめ奉仕者一同 寄り集いましたゆかりある人々と心を一つに睦み合わせて 親神様の御前にて勇んでてをどりを勤めさせて頂きました 御前に旬の草々の物を供え 在りし日の面影を偲び 御遺徳を称え 改めて御礼申し上げる皆の真実の状をご覧下さいませ 御靈様方にもお勇み下さいませ ようお願い申し上げます

さて時代は 二十世紀に終わりを告げ 二十一世紀という新世紀に向かつて 大きな変革の時を迎えております 物の時代から心の時代への移り変わりの時と マスコミで報じられております中であって 今こそ 又今からこそ 「心一つが我がの理」とお聞かせ頂くお道が求められる時代との思いのままに おぢばよりお聞かせ頂く旬の声に素直に添って よふぼく一人一人が成人を目指して たすけ一条の実動に掛からせて頂いている次第でございます それこそたすけ一条の上には命懸けで通られた御靈様方には大変お目だるい事とは存じますが 心穏やかに温かくお見守り下さいませ 皆のたすけ一条の上に 親神様から不思議自由の御守護を頂戴できるようお力添えを賜り 道や道の子の益々の弥栄をお見せ頂けるようお導きの程を 一同と共に慎しんでお願い申し上げます



先曰、おぢば帰りの途中近鉄電車の中で、青森から来たおばさんと知り合った。隣の席へ座られた御婦人が、おばさん平端で乗り換えるのよ。言い残して次の駅で降りられた。これはおぢばへ帰えられるのでは？と思いをかけた。すると案の定天理教の人で、僕もよふぼくです。おばさん一緒に帰えらせて貰いましょう。と云々と先曰、おぢば帰りの途中近鉄電車の中で、青森から来たおばさんと知り合った。隣の席へ座わられた御婦人が、おばさん平端で乗り換えるのよ。言い残して次の駅で降りられた。これはおぢばへ帰えられるのでは？と思いをかけた。すると案の定天理教の人で、僕もよふぼくです。おばさん一緒に帰えらせて貰いましょう。と云々と喜こんで下さり、大話になりました。七十六歳というその方は、昭和四十年、リュウマチの身上からお手引きを戴き修養科へ、歩く事も出来なかった身体がすっ

かり御守護を戴かれ、それで降御恩報じの道を通らせてもらっている。今回は会長さんが出直され、奥さんが後を継がれるのでお運びの同伴を仰せつかつて帰えらせてもらいましたとの事。色々な話の中、本当に純粹な信仰心に触れ、少々疲れ気味だった私も元気が出て来て、荷物を持たせてもらいながら、お道さ一つだ。と。とっても暖かな気分です。本当にありがたい事でした。喜こんで下さり、大話になりました。七十六歳というその方は、昭和四十年、リュウマチの身上からお手引きを戴き修養科へ、歩く事も出来なかった身体がすっかり御守護を戴かれ、それで降御恩報じの道を通らせてもらっている。今回は会長さんが出直され、奥さんが後を継がれるのでお運びの同伴を仰せつかつて帰えらせてもらいましたとの事。色々な話の中、本当に純粹な信仰心に触れ、少々疲れ気味だった私も元気が出て来て、荷物を持たせてもらいながら、お道さ一つだ。と。とっても暖かな気分です。本当にありがたい事でした。

「陽気ぐらし講座」実施状況と開催予定

実施状況

| 開催日 | 教会名 | 会場名 | 講師名 | 芸能者 |
|-------|-----|----------|------|-------|
| 4月 8日 | 福 満 | J A 浦崎支所 | 田村辰久 | 滝沢てるみ |
| 9日 | 福 東 | 巖山会館 | 〃 | 〃 |
| | 福 山 | 福山分教会 | 〃 | 〃 |
| | 福 春 | 吉田集会所 | 〃 | 〃 |

開催予定

| 開催日 | 教会名 | 会場名 | 講師名 | 芸能者 |
|-------|-----|-----------------------------|------|-------|
| 4月16日 | 稲 讚 | 丸亀市ひまわりセンター 城北コミュニティセンター | 京塚 貢 | 天中軒 鵬 |
| 29日 | 鶴 山 | 日上公会堂 | 〃 | 〃 |
| | 錦ヶ原 | 錦ヶ原分教会 | 藤原晃雄 | 橘 香滋 |
| | 高児島 | 第一藤田コミュニティー | 〃 | 〃 |
| 30日 | 鶴 山 | 禾本春代さん宅 | 京塚 貢 | 天中軒 鵬 |
| | 鶴 山 | 西横山公会堂 | 〃 | 〃 |
| | 笠 尋 | 学校地公会堂 | 藤原晃雄 | 橘 香滋 |
| | 興 明 | 藤沢柞夫さん宅 | 〃 | 〃 |
| 5月 6日 | 服 部 | 服部公民館 | 野村英輔 | 滝沢てるみ |
| | 湯田原 | 神辺町徳田川西老人集会所 | 〃 | 〃 |
| | 神 驛 | 森脇集会所 | 〃 | 〃 |
| 7日 | 驛 家 | 駅家町倉光公民館 | 〃 | 〃 |
| | 神 邊 | 神邊分教会 | 〃 | 〃 |
| | 備 中 | 備中分教会 | 〃 | 〃 |
| | 葦 陽 | 葦陽分教会 | 〃 | 〃 |
| | 美之郷 | 農 協 | 京塚 貢 | 橘 香滋 |
| | 福 年 | 福年分教会 | 〃 | 〃 |
| | 西 村 | 津部田コミュニティセンター | 〃 | 〃 |
| 8日 | 福 岩 | 岩子島農業改善センター | 〃 | 〃 |
| 9日 | 府 鮮 | 府鮮分教会 | 〃 | 〃 |
| 10日 | 福 節 | 草木老人集会所 | 〃 | 〃 |
| | 福 備 | | 〃 | 〃 |
| 13日 | 陽 備 | 陽備分教会 | 〃 | 〃 |
| | 吸 江 | 吸江分教会 | 〃 | 〃 |
| | 川島郷 | 川島郷分教会 | 〃 | 〃 |



婦人会笠岡支部 御臨席総会



来る5月22日、婦人会長様（前真柱様奥様）をお迎えして、
婦人会笠岡支部第20回総会が開催されます。
随行は、婦人会本部委員 高橋君代先生・田中重子先生です。



プ・ロ・グ・ラ・ム

| | |
|-------|---|
| 9:00 | おつとめ |
| 10:40 | 式典 |
| 12:10 | 記念講演 田中重子先生 (婦人会本部委員・婦人会中河支部前支部長) |
| 13:10 | 模擬店 |
| 14:00 | アトラクション |
| 15:15 | 終了予定 |



総会に関連して、5月18日午前10時より大教会内の大掃除を
させていただきます。

身も心も綺麗にして、婦人会長様をお迎えさせていただきたいと
存じますので、大勢のご協力をお願いいたします。

